

○愛知淑徳大学大学院グローバルカルチャー・ コミュニケーション研究科規程

(趣旨)

- 第1条** 愛知淑徳大学大学院グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科（以下「研究科」という。）が愛知淑徳大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第1条に則り、次の号に掲げる目的を達するため、教育課程、授業、研究指導、成績評価等及び運営等について、大学院学則に定めるもののほか必要な事項を定める。
- 2 この規程に定めるもののほか、研究科の教育課程等に関し必要な事項は、研究科委員会の定めるところによる。

(教育の目的)

- 第2条** 研究科は、「言語文化コース」・「交流文化コース」の2つのコースを有機的に連携させることにより、学際的そして実用的な言語の運用能力を重視し、社会科学的な情報分析能力に裏打ちされた実行力で、グローバル社会で研究・実践に積極的に携わる人材の養成をめざしている。

(教育課程編成の基本方針)

- 第3条** 博士前期課程においては学部での学修成果を踏まえて、高度な知識・技術を有する専門職業人を養成することを主眼にしている。専門領域に特化したより深い学修・研究を行うとともに、一方では専門性を多角的に検討し、また実践する広範な学修を可能にする複合的な教育課程を編成する。博士後期課程においては、前期課程での学修・研究成果を踏まえて、専門分野における研究を一層深化発展させることにより、グローバル社会の養成に応えた高度な知識・技術・見識を有する専門職業人を養成する一方、自立して研究、またそれに基づく実践活動ができる研究者を育成することを目的として、担当教員を定めて研究指導を中心にした学修・研究活動を行う教育課程を編成する。

(養成する人材像)

- 第4条** 本研究科が養成する人材像は、専攻が構成するコースごとに次のとおりとする。

(1) 言語文化コース

世界各国・各地域の言語に対する深遠な知識、異文化に対する深い知見、高度なコミュニケーション能力を持った人材を養成する。

(2) 交流文化コース

国際協力、国際教育、ツーリズムに関する理論的研究を行うための分析力、社会に潜む諸問題への解決策提言など社会貢献ができる実践力を持った人材を養成する。

(研究科長)

第5条 研究科に、研究科の管理運営を統括するために、研究科長を置く。

2 研究科長の選出方法については、別に定める。

(研究科委員会)

第6条 研究科の管理運営に必要な重要事項を審議するため、専任教員を構成員とする研究科委員会を置く。

2 研究科審議事項、各種委員会など研究科委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。研究科委員会は、研究科長が招集し、その議長となる。

3 研究科委員会は、委員（海外出張中又は休職中の者を除く。）の3分の2以上の出席がなければ、議事を開くことはできない。

4 議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(授業科目、単位数及び履修方法)

第7条 研究科における授業科目、単位数及び履修方法並びに研究指導は、別表のとおりとする。

(指導教員)

第8条 入学又は進学を許可された者には、指導教員を定める。

2 指導教員は、2人以上とすることができる。

3 前項の場合に必要なときは、他の研究科の教員を加えることができる。

(研究計画の提出)

第9条 入学又は進学を許可された者は、1か月以内に研究計画を作成し、所属する専攻の主任を経て研究科長に提出しなければならない。

(研究計画等の提出)

第10条 博士前期課程に入学を許可された者は、研究指導教員の指導を受けて研究題目を含む研究計画を作成し、指定の期間内に研究科長に提出し、研究科委員会の承認を得るものとする。

2 博士前期課程修了までの要件については、別に定める。

3 博士後期課程に入学または進学を許可された者は、前項の研究計画を博士論文計画書と読み替えて、同様の手続きを経るものとする。

4 博士後期課程修了までの要件については、別に定める。

(研究指導実施報告書)

第11条 博士後期課程に在籍する学生の研究指導の実績については、研究指導教員が半期ごとに研究指導実施報告書を作成し、指定の期間内に研究科長に報告するものとする。

(既修得単位の認定)

第12条 学生が研究科に入学する前に、本大学院において修得した単位については、博士前期課程の修了の要件となる単位として認定することができる。

2 学生が研究科に入学する前に他の大学院において修得した単位については、10単位を超えない範囲で、博士前期課程修了の要件となる単位として認定することができる。

3 前2項による単位の認定方法については、研究科委員会の定めるところによる。

(他の研究科の授業科目の履修)

第13条 学生が他の研究科において授業科目を履修し修得した単位については、10単位を超えない範囲で、博士前期課程の修了の要件となる単位として認定することができる。

2 前項による単位の認定方法については、研究科委員会の定めるところによる。

(他の大学院の授業科目の履修)

第14条 学生が他の大学院で授業科目を履修し、修得した単位については、10単位を超えない範囲で、博士前期課程修了の要件となる単位として認定することができる。

2 前項による単位の認定方法については、研究科委員会の定めるところによる。

(みなし認定単位数の上限)

第15条 第13条第1項及び第14条第1項の規定により研究科において修得したのものとして認定できる単位数は、合わせて10単位を超えないものとする。

(学部の授業科目の履修)

第16条 学生は、指導教員の承認を得て、学部の授業科目を履修することができる。ただし、これにより修得した単位については、課程修了の要件単位には含まないものとする。

(他の大学院又は研究所等における研究指導)

第17条 学生が他の大学院又は研究所等において、研究指導を受けた場合の認定方法は、研究科委員会の定めるところによる。

(留学)

第18条 第14条及び第17条の規定は、学生が外国の大学院に留学する場合に準用する。

(改廃)

第19条 この規程の改廃は、研究科委員会の議を経た研究科長の上申により、学長が行う。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成21年7月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

【平成28年度以降入学者】

別表

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科
言語文化コース

	科 目	必 修 単位数	選 択 単位数	修了要件 ※
前期 課程	【基礎科目】 調査技法 プレゼンテーション技法		2 2	基礎科目のうち2単位以上選択 必修
	【専門科目】 コミュニケーションスタディーズ特講1(レトリック) コミュニケーションスタディーズ特講2(言語とコミュニケーション) コミュニケーションスタディーズ特講3(メディア理論) コミュニケーションスタディーズ特講4(異文化) コミュニケーションスタディーズ特講5(組織) ランゲージスタディーズ特講1(英語統語論) ランゲージスタディーズ特講2(英語意味論) ランゲージスタディーズ特講3(英語音声学) ランゲージスタディーズ特講4(英語形態論) ランゲージスタディーズ特講5(英語教育) ランゲージスタディーズ特講6(中国語教育) ランゲージスタディーズ特講7(日本語教育) ランゲージスタディーズ特講8(日中比較言語学) ランゲージスタディーズ特講9(日本語学) ランゲージスタディーズ特講10(応用言語学) カルチャースタディーズ特講1(アメリカ文学) カルチャースタディーズ特講2(イギリス文学) カルチャースタディーズ特講3(表象文化) カルチャースタディーズ特講4(文化翻訳) カルチャースタディーズ特講4(アイルランド文学)		2 2	専門科目のうち4単位以上選択 必修
	【演習科目】 コミュニケーションスタディーズ演習1(レトリック) コミュニケーションスタディーズ演習2(言語とコミュニケーション) コミュニケーションスタディーズ演習3(メディア理論) コミュニケーションスタディーズ演習4(異文化) コミュニケーションスタディーズ演習5(組織) ランゲージスタディーズ演習1(英語統語論) ランゲージスタディーズ演習2(英語意味論) ランゲージスタディーズ演習3(英語音声学) ランゲージスタディーズ演習4(英語形態論) ランゲージスタディーズ演習5(英語教育) ランゲージスタディーズ演習6(中国語教育) ランゲージスタディーズ演習7(日本語教育) ランゲージスタディーズ演習8(日中比較言語学) ランゲージスタディーズ演習9(日本語学) ランゲージスタディーズ演習10(応用言語学) カルチャースタディーズ演習1(アメリカ文学)		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習科目のうち4単位以上選択 必修

カルチャースタディーズ演習2(イギリス文学)	2	
カルチャースタディーズ演習3(表象文化)	2	
カルチャースタディーズ演習4(文化翻訳)	2	
カルチャースタディーズ演習4(アイルランド文学)	2	
【課題実践科目】		課題実践科目のうち4単位以上 選択必修
課題実践(コミュニケーションスタディーズ)Ⅰa(レトリック)	2	
課題実践(コミュニケーションスタディーズ)Ⅰb(レトリック)	2	
課題実践(コミュニケーションスタディーズ)Ⅱa(言語とコミュニケーション)	2	
課題実践(コミュニケーションスタディーズ)Ⅱb(言語とコミュニケーション)	2	
課題実践(コミュニケーションスタディーズ)Ⅲa(メディア理論)	2	
課題実践(コミュニケーションスタディーズ)Ⅲb(メディア理論)	2	
課題実践(コミュニケーションスタディーズ)Ⅳa(異文化)	2	
課題実践(コミュニケーションスタディーズ)Ⅳb(異文化)	2	
課題実践(コミュニケーションスタディーズ)Ⅴa(組織)	2	
課題実践(コミュニケーションスタディーズ)Ⅴb(組織)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅰa(英語統語論)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅰb(英語統語論)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅱa(英語意味論)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅱb(英語意味論)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅲa(英語音声学)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅲb(英語音声学)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅳa(応用言語学)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅳb(応用言語学)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅳa(英語形態論)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅳb(英語形態論)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅴa(英語教育)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅴb(英語教育)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅵa(中国語教育)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅵb(中国語教育)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅶa(日本語教育)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅶb(日本語教育)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅷa(日中比較言語学)	2	
課題実践(ランゲージスタディーズ)Ⅷb(日中比較言語学)	2	
課題実践(カルチャースタディーズ)Ⅰa(アメリカ文学)	2	
課題実践(カルチャースタディーズ)Ⅰb(アメリカ文学)	2	
課題実践(カルチャースタディーズ)Ⅱa(イギリス文学)	2	
課題実践(カルチャースタディーズ)Ⅱb(イギリス文学)	2	
課題実践(カルチャースタディーズ)Ⅲa(表象文化)	2	
課題実践(カルチャースタディーズ)Ⅲb(表象文化)	2	
課題実践(カルチャースタディーズ)Ⅳa(文化翻訳)	2	
課題実践(カルチャースタディーズ)Ⅳb(文化翻訳)	2	
課題実践(カルチャースタディーズ)Ⅳa(アイルランド文学)	2	
課題実践(カルチャースタディーズ)Ⅳb(アイルランド文学)	2	
【研修科目】		
外国語教育実践演習(短期)	4	修士論文非提出者は研修科目 のうち4単位以上必修
外国語教育実践演習Ⅰ(長期)	6	
外国語教育実践演習Ⅱ(長期)	6	
言語文化研修(短期)	4	

言語文化研修(長期)		6	
【関連科目】			関連科目のうち2単位以上選択必修
英語教授法		2	
文芸翻訳		2	
身体文化論		2	

※ 前期課程修了要件

グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(言語文化コース)を修了するためには、2年以上在学して、上記科目から、基礎科目のうち2単位以上、専門科目のうち4単位以上、演習科目のうち4単位以上、課題実践科目のうち4単位以上、関連科目のうち2単位以上を含む30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査および試験に合格しなければならない。なお、30単位にはグローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(交流文化コース)の開設科目を含むことができる。また、修士論文を提出しない者は、フィールドスタディ科目または研修科目(レポート提出を義務づける)4単位を含む計34単位以上修得しなくてはならない。この場合も、34単位には、グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(交流文化コース)の開設科目を含むことができる。

【平成28年度以降入学者】

別表

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科
交流文化コース

	科 目	必 修 単位数	選 択 単位数	修了要件 ※
前期 課程	【基礎科目】 調査技法 プレゼンテーション技法		2 2	基礎科目のうち2単位以上選択 必修
	【専門科目】 グローバルスタディーズ特講1(国際交流政策) グローバルスタディーズ特講2(国際NPO・NGO) グローバルスタディーズ特講3(国際関係) エリアスタディーズ特講1(ディアスポラ) エリアスタディーズ特講2(アジア比較文化) エリアスタディーズ特講3(エスニシティ) ツーリズムスタディーズ特講1(歴史遺産) ツーリズムスタディーズ特講2(観光文化) ツーリズムスタディーズ特講3(地域マネジメント) ツーリズムスタディーズ特講4(観光社会学) ツーリズムスタディーズ特講5(観光マネジメント)		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	専門科目のうち4単位以上選択 必修
	【演習科目】 グローバルスタディーズ演習1(国際交流政策) グローバルスタディーズ演習2(国際NPO・NGO) グローバルスタディーズ演習3(国際関係) エリアスタディーズ演習1(ディアスポラ) エリアスタディーズ演習2(アジア比較文化) エリアスタディーズ演習3(エスニシティ) ツーリズムスタディーズ演習1(歴史遺産) ツーリズムスタディーズ演習2(観光文化) ツーリズムスタディーズ演習3(地域マネジメント) ツーリズムスタディーズ演習4(観光社会学) ツーリズムスタディーズ演習5(観光マネジメント)		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習科目のうち4単位以上選択 必修
	【課題実践科目】 課題実践(グローバルスタディーズ)Ⅰa(国際交流政策) 課題実践(グローバルスタディーズ)Ⅰb(国際交流政策) 課題実践(グローバルスタディーズ)Ⅱa(国際NPO・NGO) 課題実践(グローバルスタディーズ)Ⅱb(国際NPO・NGO) 課題実践(グローバルスタディーズ)Ⅲa(国際関係) 課題実践(グローバルスタディーズ)Ⅲb(国際関係) 課題実践(エリアスタディーズ)Ⅰa(ディアスポラ) 課題実践(エリアスタディーズ)Ⅰb(ディアスポラ) 課題実践(エリアスタディーズ)Ⅱa(アジア比較文化) 課題実践(エリアスタディーズ)Ⅱb(アジア比較文化) 課題実践(エリアスタディーズ)Ⅲa(エスニシティ) 課題実践(エリアスタディーズ)Ⅲb(エスニシティ) 課題実践(ツーリズムスタディーズ)Ⅰa(歴史遺産)		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	課題実践科目のうち4単位以上 選択必修

課題実践(ツーリズムスタディーズ) I b(歴史遺産)		2	
課題実践(ツーリズムスタディーズ) II a(観光文化)		2	
課題実践(ツーリズムスタディーズ) II b(観光文化)		2	
課題実践(ツーリズムスタディーズ) III a(地域マネジメント)		2	
課題実践(ツーリズムスタディーズ) III b(地域マネジメント)		2	
課題実践(ツーリズムスタディーズ) IV a(観光社会学)		2	
課題実践(ツーリズムスタディーズ) IV b(観光社会学)		2	
課題実践(ツーリズムスタディーズ) V a(観光マネジメント)		2	
課題実践(ツーリズムスタディーズ) V b(観光マネジメント)		2	
【研修科目】			
国際社会貢献実践演習(短期)		4	修士論文非提出者は 研修科目のうち4単位以上必修
国際社会貢献実践演習(長期)		6	
地域文化交流研修(短期)		4	
地域文化交流研修(長期)		6	
【関連科目】			関連科目のうち2単位以上選択 必修
タイ語		2	
ベトナム語		2	
ジェンダーと開発		2	
東アジア交流史		2	
東南アジア交流論		2	
地域文化交流		2	
多文化共生と教育		2	
国際観光マネジメント		2	

※ 前期課程修了要件

グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(交流文化コース)を修了するためには、2年以上在学して、上記科目から、基礎科目のうち2単位以上、専門科目のうち4単位以上、演習科目のうち4単位以上、課題実践科目のうち4単位以上、関連科目のうち2単位以上を含む30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査および試験に合格しなければならない。なお、30単位にはグローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(言語文化コース)の開設科目を含むことができる。また、修士論文を提出しない者は、研修科目(レポート提出を義務づける)4単位を含む計34単位以上修得しなくてはならない。この場合も、34単位には、グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(言語文化コース)の開設科目を含むことができる。

【平成29年度以降入学者】

別表

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科

博士後期課程

	科 目	必 修 単位数	選 択 単位数	修了要件 ※
後期 課程	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅰ(1)a		2	各年次4単位以上、合計12単位以上選択必修
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅰ(1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅰ(2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅰ(2)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅰ(3)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅰ(3)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅱ(1)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅱ(1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅱ(2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅱ(2)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅱ(3)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅱ(3)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅲ(1)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅲ(1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅲ(2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅲ(2)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅲ(3)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅲ(3)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅳ(1)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅳ(1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅳ(2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅳ(2)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅳ(3)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅳ(3)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅴ(1)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅴ(1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅴ(2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅴ(2)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅴ(3)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅴ(3)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅵ(1)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅵ(1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅵ(2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅵ(2)b		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅵ(3)a		2		
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅵ(3)b		2		
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅶ(1)a		2		
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅶ(1)b		2		
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅶ(2)a		2		
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅶ(2)b		2		
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究Ⅶ(3)a		2		

グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 VII(3)b	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 VIII(1)a	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 VIII(1)b	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 VIII(2)a	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 VIII(2)b	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 VIII(3)a	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 VIII(3)b	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IX(1)a	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IX(1)b	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IX(2)a	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IX(2)b	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IX(3)a	2
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IX(3)b	2

※ 後期課程修了要件

グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士後期課程を修了するためには、3年以上在学して上記科目中、指導教員(副指導教員を除く)の特殊研究を12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査および試験に合格しなければならない。